

## 平成28年度第5回南丹市社会教育委員会 会議録

日時 平成28年10月19日（水）午後1時30分～午後3時30分

会場 南丹市役所 第3号庁舎 2階 第4会議室

会議出席者（順不同、敬称略）

社会教育委員 三觜宏孝、清水範子、中野愛子、宇野齊、大嶋久美子、北村友子、  
富田陽子、永井正人

市教育委員会 岸本教育次長、後藤教育参事、寺田社会教育課長、  
浅田課長補佐、森社会教育主事、大塚係長、奈木野主事

傍聴人数 2名

1. 開会 司会（事務局）

2. あいさつ 中野代表

あいさつのあと、代表の進行により協議に入る

3. 協議事項 園部公民館・八木公民館の今後の在り方について  
—公民館3案検討資料策定の現状報告—

経過報告

平成26年2月の答申を受けて、28年2月に両公民館の在り方を集約した。これを受けて両公民館の耐震診断をした結果、大きな地震が来た際には倒壊の危険性があることが判り、閉鎖等決定をされた。その後社会教育会議において、4回にわたり協議いただいている。1回目は、答申に向けて意見を集約するという確認。2回目にはハード面について将来的な公民館の将来の姿を話し合った。園部・八木公民館の機能の充実に向け3案を提示する中で、今年11月をめどとした集約についてご確認いただいた。3回目は公民館の利用団体に対しての支援についてご意見をいただいた。なお、これについては文化活動の停滞をまねかないを目的に、利用料の支援に係る費用を今年度の補正予算に反映させていただいた。4回目には両公民館の休館に際しての代替施設を利用した場合の利用料の支援についてご意見をいただいた。ハード面についての公民館代替機能を、国際交流会館及び八木支所3階へ一定期間移すことについて、ご確認いただいている。なお、調理実習室については、事務局が調整していくことになっている。以上が前回までの協議いただいている内容となる。

今回は3案について中間報告として資料を基にご検討いただきたい。とりわけ耐震化に

向けた機能集約について、どのような状況になるのかについて報告する。そのあとご意見を頂戴したい。次回会議には資料作成業者からの最終資料を基に検討いただき意見集約させていただきたい。

資料に基づき、耐震・機能集約の中間報告

#### 耐震（園部公民館）

ホール棟は、舞台上あるいは舞台袖に「壁」を増設。特に舞台袖上手入り口付近を全面壁にし、併せて人が通れるようにその壁にドアを取り付け、そこから出演者やスタッフ、機材の搬入を行うことになる。上手舞台袖に幅1.5mの壁を増設し、同じく上手袖に2本ある柱の間を埋めるように壁を設置する必要がある。最も問題があるとみられる舞台上の壁は、舞台下手袖から舞台へ向けて横方向に最大幅2mの壁増設が必要となり、舞台上の壁は客席からは目隠しになるといわざるを得ない。これを実施すると下手側の客席、特に前の席からは舞台上が何も見えなくなるなど、大きな支障をきたすことになる。併せて下手袖の2本の柱の間や、現在操作盤のある付近にも壁を設置する必要がある、操作卓から舞台を確認することが不可能となる。いずれも壁の厚さは30～35cmとなる。また舞台の天井部分も強度が弱いことから、舞台上部に鉄骨梁を増設する。それには舞台上部にある吊物関係も併せて一新することとなる。

#### 機能集約（園部公民館）

国際交流会館を代替施設として想定している。研修棟の機能については交流会館2階から上階を想定している。ほとんどの部屋がそのまま会議室等で利用可能だが、新たな機能を付加させるために改修工事が必要な部屋もある。具体的には、音楽サークルなどの対応するため防音設備を設けることや、壁に鏡を張り姿見の代わりとし、ダンスなど大人数のサークルも利用可能とする部屋の改修や、床をカーペット敷きに改修し託児スペース等多目的に改修する案などがある。ホール機能については、現イベントホールに照明や舞台を増設し、公民館のホールに近い機能を持たせるのが1案。要望のあった劇場型のホールについては、イベントホールの構造上、現状では改修不可との回答が業者からあったことから、市役所の駐車場にホールを建設する案がもう1つの案。ここであれば一定規模の機能を持たせた400席程度の劇場型ホールが設置できると思われる。

#### 耐震及び機能集約（八木公民館）

耐震補強した場合、1階の談話室と3階のラウンジに壁ができる。また、八木支所3階へ機能集約した場合については、八木文化ホールは150席が確保できるように舞台の先端を可動式にしている。これで八木公民館大集会室と同程度の規模となる。隣接の給湯室を改造し控室に、西会議室と文化ホールの壁を取り外し、観覧スペースとする。和室も隣接の部屋と統合し広げる。また現印刷室を社会教育課の執務室とする。可能であれば上下

水道部の倉庫を調理室とする。

#### 主な質疑・意見

- 園部は中心であり大きなイベントがあれば中心的機能を果たす必要があり4～500席の大ホールは必要だと考えている。これまで耐震工事により客席が減ったり、中央に柱が入る、舞台が狭くなるなど不安があったが、説明を聞くと、部分的な壁設置など改修はあるものの耐震工事でも引き続き利用可能でないかとの感想を持った。ただ舞台上の壁は気になり何とかできないかとは思いますが、耐震工事で済むと安心した。
- パブリックホールとして市民にとって園部公民館の意味というものを、社会教育委員はとらえる必要がある。耐震工事の内容を聞いて安心した。学校でも耐震工事をして利用している。最小限補強工事をしたうえで安全安心して市民にご利用いただけるようにしていただきたい。
- 通常の利用でも前方の席は空席となることがよくある。400席あれば十分ではないか。
- 以前のアンケートでは、トイレや駐車場、空調の改善の要望があったが、継続利用となると、これらの修繕費用もかかることになるのか。  
→耐震補強したうえで利用継続とする場合は、躯体部分について向こう30年の利用を見せると、トイレや空調設備の更新は必須となる。
- 先日イベントホールの出展イベントがあったが、あくまでフラットなスペースで需要があると感じた。ホール仕様にするのはどうか。  
→B案では、八木公民館3階大集会室と同程度の設備なので、フラットスペースはそのままとなる。これまでと同様にイベントでも利用できるスペースに考えている。舞台裏に控室の設置を検討している。これはあくまで機能集約する案となる。  
A案について、ホールとして客席がつぶれたり壁の不具合の出る部分等、耐震補強をする際には、国の承認が必要となる。そうするとこれ以外にも支障がでることもあるかもしれない。それも踏まえた中で、社会教育委員の皆さんには、大変難しい選択であることから、教育委員会に対し意見をしていただく。そのうえで社会教育の観点から方向性を出して、総合教育会議の中で協議いただくということになる。
- 公民館がなくなることは、文化がなくなるのではという心配がある中で、多少不便でも残そうというのであれば、再開まで我慢して待っていようと思える。これまで培ってきたものは、何とか残してもらおう汗をかいていただければ。市民目線で文化的な目線から行政を進めていただきたい。そうなれば、文化サークルにも活動をより頑張ろうという意識もわいてくる。
- 八木文化ホールを利用するのは良い場所だなと見て感じた。
- 園部の機能集約の中で、イベントホールにピアノは備えられるのか。代替施設であれば必要だ。

3. その他

京都府公民館大会・近畿地区社会教育研究大会の報告

4. 閉会 清水副代表